

## 実践の留学生

秋瑾をたずねて

藤田京子

(昭和十九年卒)



(鲁迅記念館の秋瑾の写真、実践の制服を着ている)

去年の秋、小池邦夫先生主催（絵手紙創始者）の日中友好絵手紙展覧会が中国・上海市の上海芸術院で開かれ、私も、ヘタな絵手紙で参加しました。連日、大勢の人が会場を埋め、たいへんな好評でした。

この旅行の間、私は、ひそかな期待を抱いておりました。それは旅行日程の中に、紹興を訪れる日が組まれていたからです。鲁迅の旧居や、記念館を見学するのが目的でしたが、紹興は秋瑾女史の故郷と聞いていたからです。

秋瑾女史は、学祖下田歌子先生が、女子留学生として彼女を預かり、その後、秋瑾は中国に帰り、清朝末期に、若い女性革命家として、当時の男性社会の中で、救国のために、革命の嵐の中に身をおいて戦い、捕われて、一九〇七年（明治四十年）七月一日、大衆の面前で処刑されました。「秋雨秋風人を愁殺す」の句を残して刑死したこの悲しい人、この美しい人は、その時、二十一歳であった。

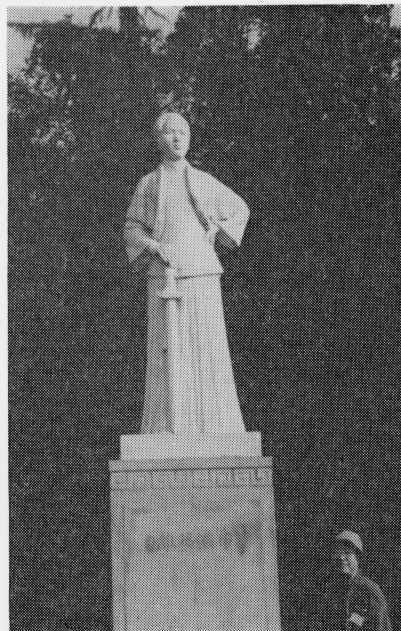
杭州から、バスでもうもうと上がる黄色の砂ぼこりの中を走ること、二時間、もうそこは紹興の町。道いっぱいの自転車、その間を歩く人の波をかきわけて、警笛を鳴らしながらバスが走りぬけていくと、街の十字路の真ん中に、五、六メートルはあろうかと思われる大きな碑が建っていました。

通訳の女性が

「あれは、秋瑾女史という、中国随一の女性革命家の断罪地に建てられた記念碑です」と説明してくれた。



処刑された地にたてられた記念碑



西湖にたてられている秋瑾の像  
右は筆者

鲁迅記念館には、中国近代化のために、革命に殉じた歴代の勇者の写真が飾られてありました。その中でひとりだけ、女性革命家として秋瑾が、鲁迅の隣に掲示されてありました。

それは中国服ではありません。秋瑾は実践の制服、緋の着物に袴姿なのです。私はこみあげる感動でいっぱいになってしまいました。「同じ学校の私が、いま、あなたに目にかかっております」とつぶやいた時、秋瑾の写真が涙で見えなくなっていました。

杭州に一泊、翌朝、西湖で、舟に乗ったり、スケッチをしたりした夕方、夕日が湖を茜色に染めるころ、真白な大理石の秋瑾女史の像に会いました。右手に剣を握りしめ、背すじをピンと伸ばし、すくっと立っています。凛々しく、美しい人でありました。その周辺の樹木は、きちんと整備され、秋瑾女史に対する中国の人々の思い入れが強く感じられ、こんな立派な人物を教育された下田先生の心意気に改めて考えさせられました。日本語も解せず、日本の習慣に教育してきた下田先生。この事業は大正二年まで続き、卒業生は二百余名にのぼるといわれている。またこの留学生の受け入れは、日本の教育史上、実践が一番最初といわれている（明治三十四年）。

実践のみなさん。ぜひ一緒に秋瑾女史に会いに行きませんか。